病理検査（びょうりけんさ）ってなあに？



©joshibi

びょうりけんさ 病理検査ってなあに？

びょうりけんさ なか
病理検査ではからだの中かからとってきた

さいぼう そしき けんびきょう けんさ
細胞や組織を顕微鏡でくわしく検査します。

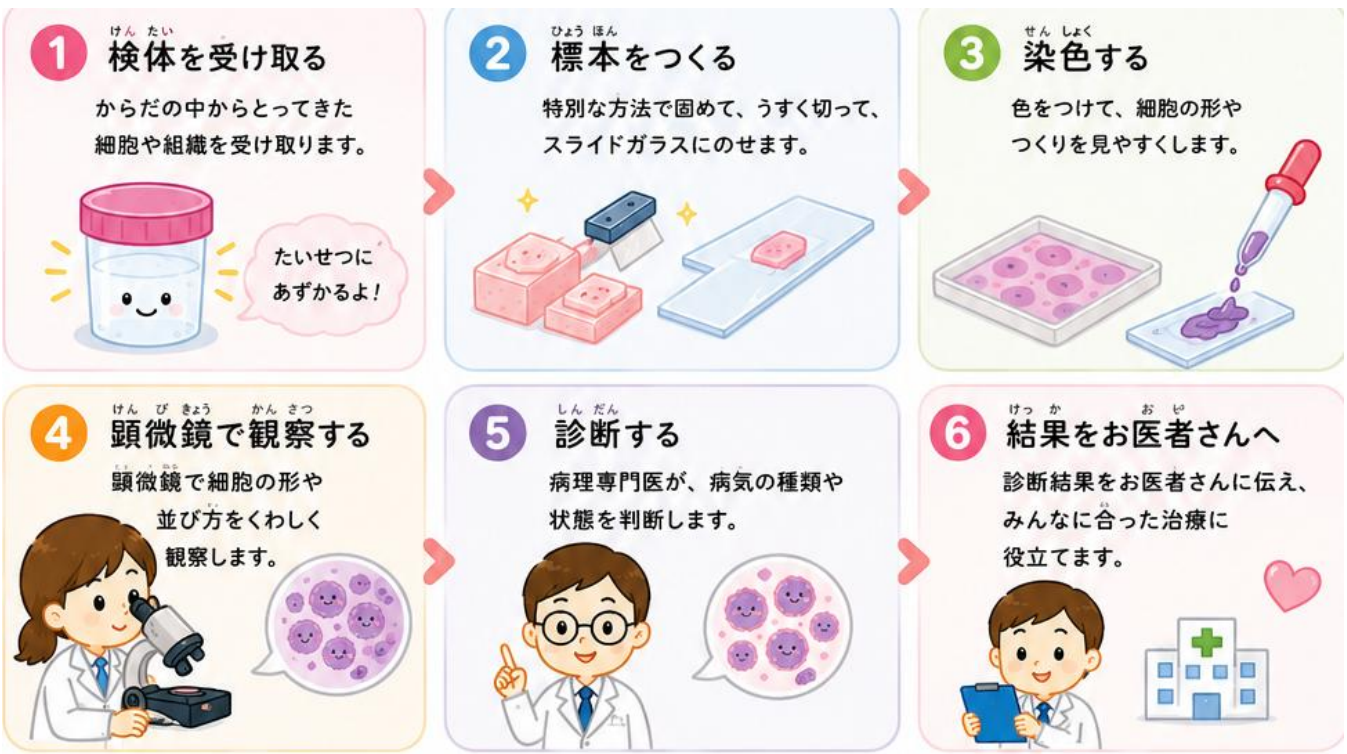
さいぼう かたち なら み びょうき
細胞の形や並びなどを見てどんな病気なのか

しら
を調べます。

いしゃ ちりょう
お医者さんが、みんなにぴったりの治療を

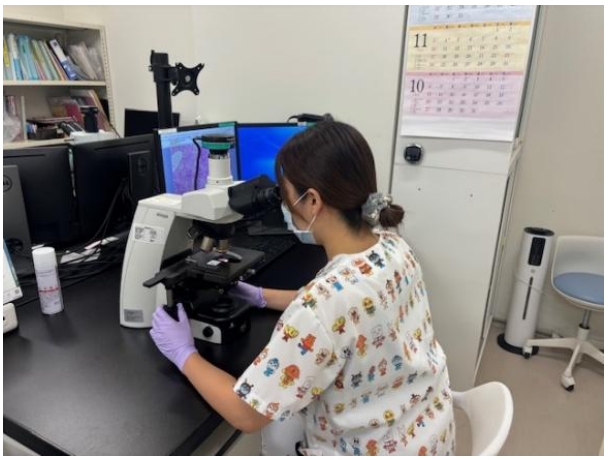
えら たいせつ けんさ
選ぶための、とっても大切な検査です。

～ びょうりけんさのながれ ～



病理検査室から保護者の方へ

病理検査は、標本作製から診断までの多くを手作業で行っています。
そのため結果が出るまで、数日から数週間を要します。



《　当院で行われている主な病理検査　》

① 病理組織診断検査

- 検査や治療の際に採取された組織を薄く切り、特殊な染色を行って標本を作製します。
- 病理専門医が顕微鏡で詳しく観察し、炎症による変化なのか、腫瘍による変化なのかなどを診断します。病気の確定診断や治療方針の決定に重要な役割を果たす検査です。

② 病理細胞診断検査

- 尿や髄液、気管支から採取された細胞などを標本にして観察する検査です。
- 細胞検査士が細胞の異常の有無を詳しく確認し、その後、細胞診専門医が最終的な診断を行います。感染症や炎症による変化だけでなく、悪性細胞の有無を調べることもできます。



③ 電子顕微鏡検査

- 通常の顕微鏡では見えない細胞の内部構造を、電子顕微鏡を用いて数千倍から一万倍以上に拡大して観察する検査です。
- 特に腎臓や心臓の病気では、診断に重要な情報を得ることができます。標本作製には高度な技術が必要であり、診断までに時間を要することがあります。

《 専門スタッフによる診断体制 》

- 当院では、病理専門医（細胞診専門医）、細胞検査士、電子顕微鏡技士、臨床検査技師が連携し、お子さま一人ひとりの検査に丁寧に取り組んでいます。
- 正確で質の高い診断を通して、お子さまに最適な医療を提供できるよう努めています。